

な方法ではなからうかと思えます。

■ 三十九年度の移動県政相談から

さて、少々理くつぽつくなりしました。ここで三十九年度実施しました移動県政相談について述べてみましょう。

三十九年度は、球磨地方で十二月七日八日九日の三日間、明けて一月の二十五日二十六日の二日間鹿本地方で行ないました。

球磨地方の移動県政相談については十二月号で一応お知らせしましたが、未実施の十ヶ町村を対象に六会場、鹿本地方では、これも三十五年と三十六年度に実施した地区を除いて、一市二町一村四会場で実施しました。

どちらも寒い時期であり、とくに球磨地方は山岳地帯のため平地よりも冷えこみはきびしく、かつ夜の会場が二会場もあつたりして、鹿本地方の各会場も含めて、相談にこられた住民の方や、関係者にお寒い目にあわせましたが、おかげで各会場とも多数の利用者があつて、所期の目的が達成できたことを、紙上を借りてお礼申しあげます。

ところで、球磨地方の各会場の意見や要望の傾向としては、今度の会場が二級国道二一九号熊本宮崎線沿いであつたせいか、同国道の整備拡充と、それに連なる県道の舗装整備を望む声が多かつたようです。そのほか、土地基盤整備と構造改善事業及びその資金関係並びに農村の労働対策や煙草作付に対する諸問題、特に山間



があらかじめ設定し、または事前には掘っておかれたものでなく、全くフリーな質問であるということです。

担当者が、あらかじめ質問を探り、あるいは質問を設定して発言させ、知事に答へんさせるという筋書をたてての相談であつたなら、折角の住民と知事の話しあいがあるの意味もななくなつてしまいます。全くフリーな気持ちで自分の心を知事にぶつけ、知事も卒直に住民の意見をきいて「わだかまり」や「誤解」がなくなるよう話しあつてこそ意義があるものなのです。

まえにも書いたと思いますが、民主政治の理想が「世論を行政に反映する」とこと「理解を深め、協力を得る」ということであるならば一番簡単にして合理的にその目的を達し得るものは最も原始的な方法ですが、お互に話しあうことではないでしょうか。しかしそれにはつくりごとがあつてはならないことは、繰り返さし云

部における特色として、粟をはじめとする落葉果樹の振興や害虫対策、林道の問題などについての質疑が多かつたように思えます。

このうち、農村における労働対策、煙草と桑の作付競合、それに加えて養蚕における農業の被害対策などは鹿本地方の諸会場でも数多く開陳された問題ですが、恐らくこれは県下における共通した重要な農政問題の一つではなからうかと思えます。

つきは、先月二十五日、二十六日の両日鹿本地方で開催された移動県政相談ですが、今度の各会場が平坦地区でもあり、且つ比較的通路も整備されていて、県庁にはバスでも一時間足らずの交通至便の地で容易に県庁を訪ずれやすい位置にあるため、このような催しをやつても果して住民の方々に相談にきていただけるかどうかと心配でしたが、ふたをあげてみると、各会場ともかなり盛況な質問の連続、時間を延長してもなお余る質問者から司会者がおこごこを食うようなこともあつて相当な成果をあげることができたことは、婦人層の発言者が目立つたことも含めて大きな喜びでした。

鹿本地方の各会場で言われた相談の傾向としては、球磨の移動相談でも述べた煙草と桑の作付競合、養蚕と農業の問題があります。

特にこの地方は養蚕の盛んなところだけに質問にも力が入り、それに対する知事や、養蚕の神様として全国に有名な農政部長の口調にも熱のこもつたものが感じられました。

また農村にも喜んで嫁がきてくれるような対

う必要もないことと思います。このようにして「知事の顔」を身近かに見ながら、心情を吐露し、答へんに立つ「知事の顔」から誠実さをくみとり、さらに信頼の度を加えて相互の理解を深めることは、県発展の大きな要因であり、住民にとつてもまた大きな魅力の一つで、これが、これまでの移動県政相談が好評を博しているゆえんの一つでもあると思います。

ますます高度化する行政の機能を円滑に運営し、事業を遂行するためには、今後一そう住民の理解と協力が必要となつてくると思います。

また、住民の福祉向上のためにはさらに一そう住民の意向を行政に反映させることも必要になつてくると思います。

そのために、「知事の顔」を問ひかく見ることのできる移動県政相談は、これからもより多く続けられなければならないと思います。



策をお願いしたい。そのために経営宣伝農場などに女子の農作業習得のための制度をつくつて欲しい」という要望もありましたが、これとても訴えられた形こそ違つていますが、球磨地方でも訴えられた農村労働対策についての、住民の切実な声であるうかと思はれます。そのほかに、鹿本高校と山鹿高校の合併、統合校舎の実現、肢体不自由児施設を城北地区に設置すること、あるいは生活改善のための援助など数々の声がかかれましたが、そのうちでも平坦地における特色として砂利の採掘と、農業利水の問題があります。特に砂利採掘については、ときおり新聞紙上にも取りあげられている問題ですが、河床を下げて河水の流通をよくし洪水予防にも役立つ砂利の採掘が水位の低下をきたし、かんがい用水の取入口として多額の費用を投じて設けられたせきの機能を低下してしまつて農業利水に大きな支障を生ずるといふ結果を招来しているわけです。その因果関係をどう解決するか、これまたこの移動県政相談で改めて認識しなされた土木行政、農政部門にまがら頭の痛い問題ではないかと思ひます。

■ むすび

以上が三十九年度の移動県政相談のなかで記憶に残つた相談事項のいくつかです。

このほかにもいろいろとあります。しかしここでお断りしておきたいことは、これらの質問

